

## 第6回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：令和2年3月12日（木） 18：30～20：40

場所：境港市役所 第一会議室

### 日程

1. 開 会
2. 第6期みんなでまちづくり推進会議委員の提言についての協議
3. その他
4. 閉 会

### 出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾 勝 松田真二  
渡邊冬樹 遠藤 緑 門脇京子 糸川 諒 岩本和貴

（事務局）

沼倉加奈子（地域振興課長） 木村哲（地域振興課長企画係長）  
渡部大樹（地域振興課企画係主任）

### 傍聴者

2名

### 欠席者（敬称略）

松本信子 足立 勲

### <開会>

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、ご案内のとおり、第6期の委員による最後の会議ということになります。なお、足立委員、松本信子委員が欠席となっております。

本日は、第6期委員の提言書の作成に向け、意見を出しあえたらと思います。

では、早速、次第2「第6期みんなでまちづくり推進会議委員の提言についての協議」について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

先日、皆さまへ提言書（仮）を送付させていただきました。本日、お持ちいただいておりますでしょうか。

第6期に関しましては、当初より、事業の報告ないしは提言を行うという形で進めておりました。報告か提言かというのは合意を取っておりませんでしたけれども、ただ会議を重ねる中で、「高校生と話をする」「移住者と話をする」と内容が順次決まっていき、実施した結果、提言に結び付けられるだけの意見が集まったと判断しましたので、今回、事務局の方で一先ず「仮」という形で、提言書を作らせていただきました。また、本会議のアドバイザーである島根大学法文学部の毎熊浩一先生からはワークショップも多く実践したことから、色んな団体でワークショップができるようマニュアルを作ってはどうか、というご意見もあり、提言書に附則として掲載しております。また、本日、島大生の方も来ておられますけれども、ワークショップに参加した島大生からの提言というのも附則として掲載する予定としております。

続いて、提言の流れについて説明いたします。

本日、皆さまからの意見をもとに加筆・修正した後、会長・副会長・毎熊先生に内容をご確認いただいた上で、完成とし、27日（金）に委員を代表して、会長・副会長から市長に提出をしていただきます。その際には、島根大学からも学生さんが出席いただくよう調整をしております。その後、委員の皆さまのお手元にも配布させていただき、市のホームページでも掲載させていただきます。

それでは、内容の確認に移りたいと思いますので、進行を会長にお願いしたいと思います。

（会長）

事務局から事前に配布されております仮の提言書を見ながら進めていきたいと思いますので、ご準備をお願いします。

※以下、提言書の細かい内容を協議

では、意見も出尽くしたようですので、事務局は、今日出た意見を反映した提言書の作成をお願いします。

事務局から何かありますか。

（事務局）

冒頭でも触れましたが、皆さまからの意見をもとに提言書を修正した後、会長・副会長・毎熊先生に内容をご確認いただいた上で、完成とし、27日（金）に委員を代表して、会長・副会長から市長に提出をしていただきます。その際には、島根大学からも学生さんが出席いただくよう調整をしております。その後、委員の皆さまのお手元にも配布させていただき、市のホームページでも掲載させていただきます。以上です。

（会長）

はい。それでは、続いて、次第3の「その他」に移ります。事務局より説明をお願いします。

ます。

(事務局)

それでは、本日が最後ということでもありますので、会長から順に皆さまから感想などお聞かせいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。では、会長からお願いします。

(会長)

中にいる人間だとなかなか良さとか気がつかない、当たり前になっていることを外から来た人と話せたことはとても良かったと思います。また、これからもそういった方々と協力したり、こういった場を作っていただけたらと思います。

(委員)

ワークショップは大変良い経験だったなと思います。「U・I ターンしたくなるまちづくり」の私自身の考えは、今住んでいる人たちが喜んで住むようなまちにできれば、それが口コミで広がっていくのではと思いますので、まずは今住んでいる人たちがいかに住みやすいまちにするかということが一番大事じゃないかと思っております。

(委員)

今年度、なかなかワークショップの方に参加できなくてすみませんでした。来年はコミュニティスクールの方に参加しておりますので、また学校教育現場からの意見というのも出していけたらと考えております。

(委員)

私自身、島根大学という枠で参加させていただいたのですが、なかなか知識不足が否めない中で、境港のことを考えてらっしゃる方の熱い思いというか、こういうことをやりたい、こういうことをしているとう話を聞かせていただいて、私はここを離れることにはなるのですが、地元に戻ってそういう思いを持っておられる方と話をするときここでの経験が生かせるんじゃないかと思っております。

(委員)

何かものすごい決意があって、この会議に参加したわけではなかったのですが、参加する中で自分の境港に対する考え方も変わっていきまして、こういう風にしたいと思って活動しておられる方がいるというのを知れたのもすごく良かったと思います。参加できないときもあったのですが、こうやって境港に住んでいる皆さんや高校生の皆さんや島根大学の皆さんの意見が聞けたというのはとても勉強になったので、学んだことが少しでも境港の役に立つように返していけたらなと思います。

(委員)

様々な年代と様々な職業の方と話して、いろいろな意見があったなあと思っています。やはり、持続可能なまちづくりという点では、多様性が必要とされるので、こういった意見がまとめられたのは本当に良かったなあと思います。

(委員)

一時期、仕事の都合で東京に行っており、参加できないときもあり、話についていけないというときもありましたが、東京に行って、鳥取ではこんな話してたなあとか大阪の人はこんな話してたなあとか、外からはこんな風に見ているというのが分かって、この会議にも生かされたかなあと思っています。

(委員)

この会議のメンバーに入って、多くの人との出会い・交流ができて非常に貴重な体験をさせてもらいました。これからもこれを財産として何か役に立つようなことをしていければなあと思っています。

(委員)

私は最初に委員になったときは、補助金の審査くらいで、2年・3年と年だけ重ねていて、ワークショップをするようになって、特に、今回若い人たちが委員に入って、遅れないように頑張りました。大学生の方の意見も感心するばかりで、自分は何もできなくて申し訳なかったですがこの2年間は、こういう風にまちのことを考えていくんだというのが分かり、私自身は本当に勉強になりました。

(委員)

条例の素案作りから毎熊先生と一緒に関わり、1年で作る予定が全然時間が足りず、2年かかってやっとできた素案、それが条例化され、どう運用するかというところでずっと関わってきました。やっと、この6期になって、何とか回っていきそうだなと感じました。制定するとこまでは来たけど、どう運用するののかも分からず足踏み状態で来てしまった。ところが、本当に新しい形で希望の光が見えるような感じがしてきました。これで条例が、運用の運びになってきたと思うので、安心して卒業できるんじゃないかなと思っています。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、最後に、事務局を代表して、地域振興課長から挨拶いたします。

(地域振興課長)

皆さま、本当に早い2年間だったと思います。5期からテーマを設けて市長にものを言うという機会まで作っていただいたというのは、委員が仰るように、市民によるまちづくりってというのが、自立してきた証でもあるんじゃないかと思っております。

境港市も総合戦略を策定したのですが、日本全国が人口減少しており、境港だけが人口を増やすというのが難しくなっている中で、住まいは東京だけど、境港に関わりを持って、境港に時々遊びに来るよという「関係人口」を大事にしていこうという取組も進めていくことになりました。今日は島大生が2人話を聞きに来てくれていますが、境港に遊びに来てくださいね。こういうご縁を大切にしていきながら、皆さんにもそれぞれの団体でもっともっと活躍していただくと、より一層、市民による市民のまちづくりというのが活性化していくのだと考えています。

うるさいことも申し上げたかもしれませんが、本当にありがたいご意見をいただけたと思っておりますし、高校生や大学生との道筋を作ってくださったのは皆さまだと思っております。本当に2年間ありがとうございました。また、この会議だけじゃなくて、境港市は色々な審議会があります。ワークショップの機会をたくさん設けていきながら、政策展開していくことになるんじゃないかと思っております。そういった場面では、ぜひ積極的に手を挙げていただいて思いの丈をどんどん喋っていただくという実践もしていただきたらと思います。長くなりましたが、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、第6期委員の会議はこれで終了といたします。皆様、ありがとうございました。

<閉会>